

中学年との連携

1 学習指導要領より

学習指導要領では、外国語活動の目標を以下のように設定している（下線は筆者による）。

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。
- (2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。
- (3) 外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

外国語活動では、「聞くこと」「話すこと〔やり取り〕」「話すこと〔発表〕」の3つの領域を設定し、音声面を中心とした指導をおこなうこととなっている。中でも「聞くこと」の指導が重視されており、学習指導要領でも、話すことを急がせず、音声を十分に聞かせた上で段階的に話す活動につなげていくことが大切であると述べられている。

外国語科では、上記3つの領域に加え、「読むこと」「書くこと」が設定されている。ただし、「読むこと」「書くこと」は外国語活動では指導されていないことから、「聞くこと」「話すこと」と同等の指導は求められていない。音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現について、段階的に読んだり書いたりすることができるように指導する。

2 慣れ親しむと習得

外国語活動の目標では、知識及び技能に関わる目標として、(1)に「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ」ことが掲げられている。一方、外国語科では、「(前略)

実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付ける」とある。「慣れ親しむ」と「技能を身に付ける」の違いについて、『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』（文部科学省, 2017, pp. 160-161）では、以下のように述べられている。

「慣れ親しむ」は、単元に設定されている様々な活動の中で、その単元で使用するように設定されている語彙や表現を聞いたり話したりしている児童の行動として捉えることができる。一方、その語彙や表現を異なる場面でも使用できる状態を、技能を身に付けている姿、すなわち習得している状態と考えることができる。

このことから、外国語活動では単元で学習した語句や表現を単元終了後に必ずしも覚えていなくてもよいのに対し、外国語科では、単元で学習した語句や表現について、単元の学習が終了したあとも活用できることが求められていることがわかる。

実際の指導において、外国語活動では、①言語材料の導入→②練習→③言語活動という手順でおこなわれることが基本となる。①では聞く活動を通して語句や表現を理解し、どのようなやり取りをしたらよいかというモデルを見たりする、②ではチャンツや歌、ゲームなどを通して練習する、③では言語活動をおこなうという流れになる。ただし、外国語活動の目標にもあるように、「言語活動を通して」指導する必要がある。機械的な練習に終始しないように、伝え合う目的や必然性のある場面を意識して、児童が語彙や表現を聞いたり話したりできるようにすることが重要である。

一方、外国語科では、①言語活動を自分の力でやってみる→②必要に応じて学ぶ→③もう一度（あるいは複数回）言語活動を繰り返す、という指導の流れになっている。CROWN Jr. では、①②③のプロセスを Lesson の各 Part でくり返しておこない、活動の集大成として JUMP が設定されている。

②必要に応じて学ぶ段階では、外国語活動で行われる①～③の指導手順を参考にするとよい。具体的には、各 Lesson の、Let's Watch や Let's Listen など新出語句や表現を学び、Let's Speak や Let's Play で慣れ親しみながら言語活動をくり返し、Let's Talk では学習した語句や表現を使ってやり取りをする。

3 CROWN Jr. での指導

(1) Let's Try! の学びをスパイラルに繰り返す

Let's Try! では、単元の最後に Activity が設定されている。Let's Listen や Let's Play などの活動を通して言語材料に慣れ親しみながら、ゴールとなる活動につなげていく。それに対し、CROWN Jr. では、はじめに HOP でゴールが示され、各レッスンでゴールを達成するために必要な表現を学びながら、Unit 末の JUMP でコミュニケーションの目的や場面、状況に応じた活動をおこなうという流れになっている。つまり、始めに言語材料ありきで学習が進められていくのではなく、コミュニケーションの目的や場面、状況に合わせて、児童自身が学びながら必要な語句や表現を選択したり活用したりできるようにしていく。外国語活動で慣れ親しんだ語句や表現は、外国語科でもさまざまな目的や場面、状況のもとで繰り返し学習できるように工夫されている。

Let's Try! 1 Unit 4 I like blue.

(言語材料例)

I like (blue). Do you like (blue)? Yes, I do. / No, I don't. I don't like (blue).

【Activity】

すきなものを言って、じこしょうかいをしよう



CROWN Jr. 5 Lesson 1 My name is Jun.

(言語材料例)

My name is Jun. My birthday is April 10th. I like soccer.

【活動】

お互いに自己紹介をし、好きなものなどについて伝え合う

Step-up 自己紹介カードを書いて、自己紹介をし合おう。

Let's Listen & Read ジュンが自己紹介カードを書きました。ジュンの自己紹介を聞きながら文字を追ってみよう。

My name is Jun.
My birthday is April 10th.
I like soccer.

Name Jun
Birthday 4 / 10



CROWN Jr. 6 Lesson 1 We are from India.

(言語材料例)

We like basketball. We can play basketball well. We want to go to the USA. We want to watch basketball games.

【活動】

共通点を探すために、好きな食べ物などについて尋ね合う

Step-up 自分たちの共通点を伝え合おう。

Let's Listen & Read ニックがジュンとの共通点を書きました。ふたりの発表を聞きながら文字を追ってみよう。

We like basketball.
We can play basketball well.
We want to go to the USA.
We want to watch basketball games.

(2) 類似した活動

Let's Try! 1 Unit 8 What's this?

(言語材料例)

What's this? Hint, Please. It's (a fruit). It's (green). It's (a melon).

【Activity】

クイズ大会をしよう



CROWN Jr. 5 Lesson 6 It is in Fukui.

(言語材料例)

This is a dinosaur museum. It is in Fukui. You can see a T-rex at the museum. It is big.

【活動】

おすすめの場所をクイズにして伝え合う

(3) その他

教科書冒頭には、「英語で言ってみよう」というコーナーを配置しており、Let's Try! で慣れ親しんできた語句や表現について、活動を通してふり返ることができるようになっている。学年のはじめに簡単な（言語）活動をして、スムーズに第5学年の指導に移ることができる。